

## 顧客との対話と協創の場「カスタマーテクニカルセンター」、 戦略的な注力分野における顧客の課題の解決に向けた機能を強化

産業向け資材・消費財メーカーのスリーエム ジャパン株式会社（本社：東京都品川区 代表取締役社長：スティーブン・ヴァンダー・ロウ）は、カスタマーテクニカルセンター（神奈川県相模原市）の、お客様が持つ課題の解決に向けた機能を強化します。

カスタマーテクニカルセンターは、お客様の技術的な課題を解決するアイデアを、お客様と当社のエンジニアがともに考え、導いていくことを目指すソリューションセンターです。開設以来20年にわたり、3Mの技術基盤「テクノロジープラットフォーム」にある46の技術をベースに、デモンストレーションやデータ分析を通じて、お客様とともに問題解決のソリューションを開発してきました。一方で、近年ではお客様の課題の社会性の高さとともに、課題が大型化、複雑化する傾向があります。

そこで従来の「技術的課題の解決」に、新たに「社会的課題の解決」というアプローチを加えることで、カスタマーテクニカルセンターの機能を強化します。国内のメガトレンドであり、戦略的な注力分野でもある「社会インフラの更新・長寿命化」と「IoT時代の到来」にあわせたソリューション提案を、2018年より開始します。

### ■ 「社会インフラの更新・長寿命化」

国内の多くの道路や橋梁は、高度経済成長期に集中的に整備されたことから、今後老朽化が急速に進むことが懸念されています。維持・管理・更新という社会課題に加えて、さらなる長寿命化が期待されています。

「3M™ コンクリート保水養生テープ2227HP」や「3M™ コンクリート給水養生用水搬送シート1117」は、コンクリートの高品質化と養生作業の簡素化を同時に実現する素材として、橋梁やトンネルなどコンクリート構造物の建設を担う土木業界を中心に高い関心を集めています。

また、地震大国とも言える日本では、継続的な地震対策が欠かせません。

半世紀の歴史をもつ「3M™ スコッチティント™ ウィンドウフィルム」は、これまでの多くの大型地震でガラスの飛散を防いできました。

これらをはじめとした3Mのソリューションを提案するゾーンを、2018年中に設けます。

### ■ 「IoT時代の到来」

電気自動車の普及が始まり、さらには自動運転の実現も視野に入りつつあります。車載分野においては、電子デバイスの多様化や、高集積化に伴う発熱量の増加により、耐熱性・遮熱性・放熱性や耐久性など高い品質が求められています。

3Mの放熱シートは、揮発性が低く車載カメラのレンズを曇らせないといった特長があります。

一方、自動運転の実現は自動車だけでは実現しません。例えば、昼夜や天候に左右されず車載カメラ

---

が標識や標示を的確に読み取れるような交通インフラの更新が期待されています。

雨天時等に見えにくくなる路面標示も「3M™ ステイマーク™ 全天候対応型貼付式路面標示材 380AW」の優れた反射特性により視認性の向上が可能となります。

これらをはじめとした3Mのソリューションを提案する展示を、2018年上旬より開始します。

3Mは日本でスタートしたカスタマーテクニカルセンターを各国へ展開しており、現在では世界40カ国・56カ所で日々お客様を迎えています。設立20周年を迎えるカスタマーテクニカルセンターは、お客様の課題解決能力を一層強化することで、今後もお客様のビジネスをさらに前へ進めるのはもとより、毎日の暮らしを快適に、そして、明日をもっと豊かにします。